

モノが語る“声”を届ける 目の眼

骨董・古美術メディア

- 雑誌『目の眼』
- ウェブメディア
- 企画制作・コンテンツ提供
- アンティーク・コンシェルジュ



骨董・古美術雑誌『目の眼』

創刊47年目を迎えた月刊『目の眼』は、骨董・古美術に特化した出版メディアとして、1つのジャンルを深く掘り下げることと同時に、幅広く複眼的な視点で、読者に情報を提供してきました。

骨董・古美術品はすべて「1点もの」です。ひとつひとつに異なる個性があり、その優劣を見分けることが重要なポイントになっています。そのためには「深く見ること」「広く見ること」、とくに数多くの一級品を見ることが、幅広いジャンルを見通す眼をもつことが大切です。

月刊『目の眼』は、書画・陶磁器・茶道具・刀剣・民藝・調度品や文具など多岐にわたる骨董・古美術の世界と、時代を超えてそれらを繋いできた人たちにフォーカスし、毎号横断的な特集をお届けしています。

また、デジタル技術とネット社会の進化や、この数年のコロナ禍を経た人々の情報収集やニーズの変化にあわせ、事業のデジタルシフトを進めるとともに、骨董・古美術に関する企画制作やサポートにも事業を展開しています。

オンラインとオフラインの自社メディアを両輪とし、骨董・古美術界の「買い手」「売り手」をつなぐポータルメディアとして、さらなる進化を続けてまいります。



●創刊：1977年

●発行部数：6,000部（2024年5月時点）

●販売取扱：一般書店、amazonなどオンライン書店、
自社WEBサイトで販売。

そのほか美術館、博物館、大学、図書館、美術店、
ギャラリーなどで取扱多数。

●定期購読：約1000人（2024年5月時点）

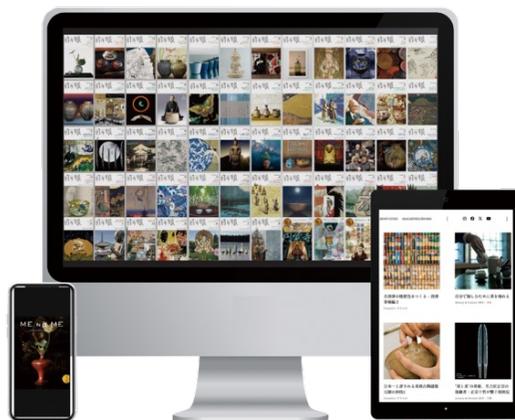
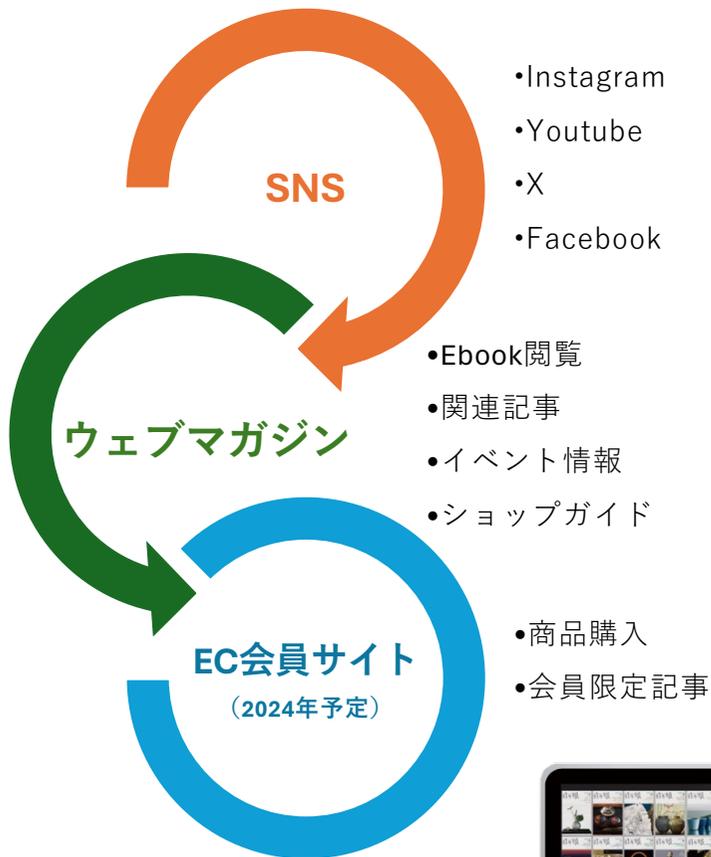
骨董・古美術ウェブメディア

雑誌掲載の記事を自社のウェブメディア（公式サイト、SNS）に展開することにより、骨董・古美術の情報メディアとしてファン層を拡大させています。

公式ウェブサイトでは、2020年から月刊『目の眼』最新号の全ページを期間限定で公開。現在、サイト全体の月平均ビュー数は12,700ビューですが、そのうち約4割が最新号（Ebook）を閲覧しています。

2023年12月にはウェブマガジンとして公式サイトをリニューアル。記事配信を増やし、骨董・古美術品の旬な情報から、美術商やコレクターへのインタビュー、展覧会や骨董市など全国のイベント・催事情報などを配信しています。今後は『目の眼』のバックナンバーから最新号のデジタル版を集めた月額読み放題サービスと、EC機能を強化した会員ウェブサイトの開始を予定しています。

骨董・古美術ファンの裾野を広げている自社SNSでは、とくにInstagramとYouTubeのフォロワー数が3年間で約1.5倍伸び、骨董・古美術メディアとして最もフォロワー数を多く獲得しています。



公式SNSフォロワー数（2024年5月時点）



@menome1977
9,800人以上



@menome1977
2,800人以上



@menome1977
1,700人以上



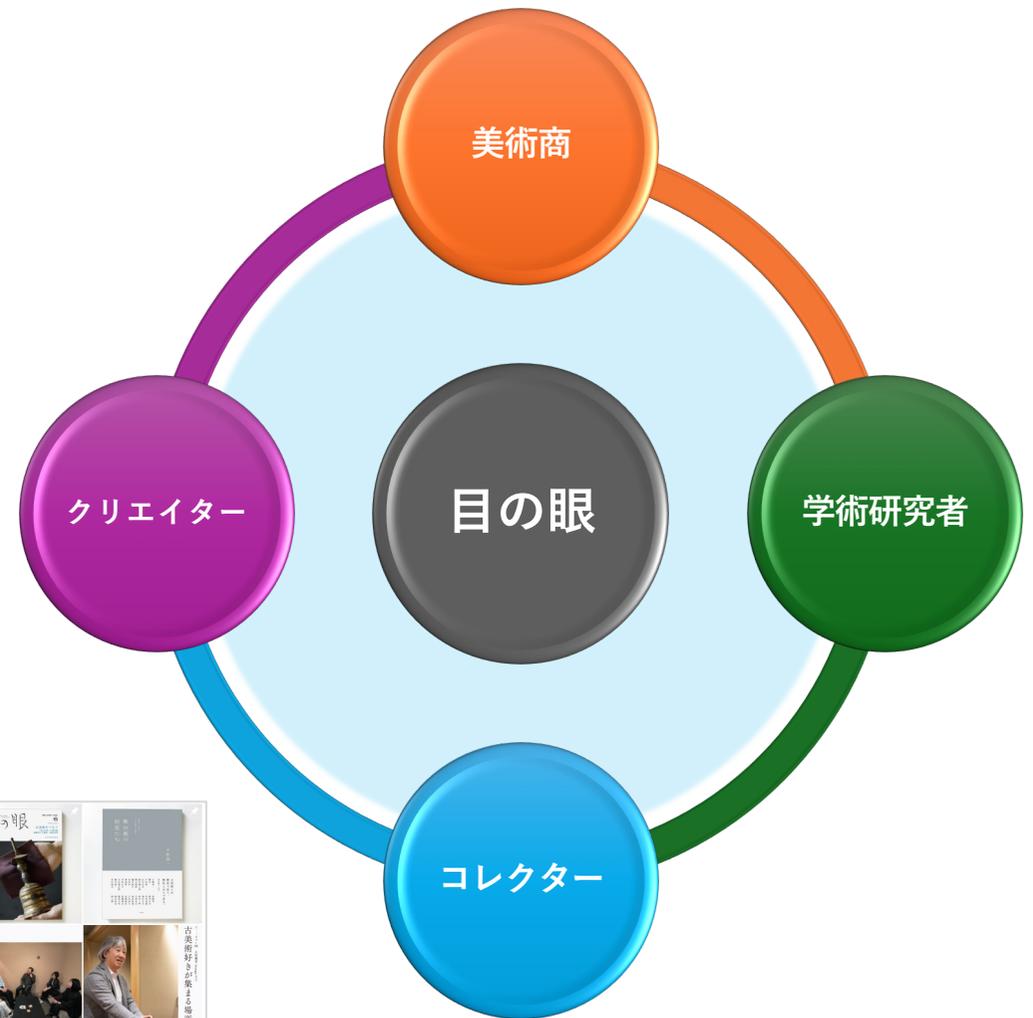
@menome1977
3,000人以上

読者&フォロワー層

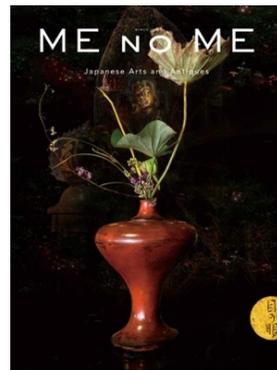
雑誌『目の眼』の読者層は40代～60代の男性が中心ですが、ウェブメディア（SNS）のフォロワー層には30代も多く、男女比はほぼ半々となっています。アジア圏のフォロワーも増えており、SNSを経て雑誌の定期購読にもつながっています。

職業別では美術商や美術館・博物館などの学術研究者が多いのももちろんですが、医師、会社経営者、事業家から学生までエンドユーザーの職種は多岐にわたります。SNSフォロワーには作家やデザイナーなども多く含まれます。

「目の眼」は骨董・古美術のポータルメディアとして、美術商・研究者・コレクター・クリエイターをつなぐ担い手となることを目指しています。



【アートコレクターへの取材】
実業家の前澤友作氏は、古美術品コレクターとして『目の眼』にも度々登場。



【英語版刊行 MENOME】
雑誌『目の眼』のバックナンバーから海外向けに厳選した記事を英訳して販売。



【インスタグラム】
雑誌と連動した投稿を中心に骨董・古美術の関わる人やモノを紹介。

企画制作・コンテンツ提供

情報を発信するメディアとしての役割から事業を拡大し、商業施設、書店のスペースを活かした企画をはじめ、各地の観光協会、新聞社、飲食や旅行業とのタイアップ企画など、骨董・古美術に関連したイベントをご提案しています。

また、他誌や他媒体、他ウェブメディアからのご相談を受け、骨董・古美術に関する情報提供や取材の協力も行っています。



【記事制作】
雑誌『リシェ』『婦人画報』（ハースト婦人画報社）からの依頼で、古美術の紹介記事を制作。

「東京十月」×酒器「多田酒器」×「和器アートコレクション」特別企画

爛でたのしむ夏の酒器会

本記事掲載の正岡さんの酒器を実際に使って、酒肴・多田さんオススメの日本酒と、東京十月の本機石を味わう特別な食事会を開催します。限定開催です！詳細は左記を参照して下さい。

開催概要
7月8日(金)～10日(日) 17時より 東京十月

定員 5～6名様(1組あたり)
会場 東京都港区赤坂山5-7-17 小塚流通ビル1F
料金 33,000円(税・サービス別)
問合せ 03-6427-3300 (情報アクセス)
アクセス 東京メトロ有楽町線・有楽町線・千代田線「赤坂駅」B3出口を出て徒歩約4分

【東京十月】全野 焼肉
日本料理人、全野焼肉が和の食材にひと手間を掛けて丁寧に焼き上げた本格焼肉が楽しめるお店。田舎GASSTER (by VILLETTE)、光と水の彫刻家 ANTE VOJNOVICのテーブル等、うつわ内装も絶妙。

【和器】全野 酒器
東京フタバホテル「天乃川」【ふしきの】「月よみ庵」にて酒肴、神楽焼【真露】原庄を堪能。現在は北野酒場、日本酒コンパチット、和食が楽しめる多田を満腹で料理を召立てるサービスを提供する。

【美術商とのタイアップ】
古い器を使った食事会や、古美術店でのプライベートビューイングやガイドツアーなどを企画。



【骨董市の会場運営】
若手古美術商たちによるSNSユニット「道具屋めいてい研究所」とGinza Sony Park、目の眼の3社による骨董市を開催。



【トークイベントの企画運営】
日本経済新聞社様と目の眼による特別講演会を2019年から開催。講演会のテーマ設定から登壇者のコーディネート、講演会の進行運営をプロデュース。

* 現代作家の杉本博司さん、クリスティーズジャパン代表の山口桂さんには3年連続登壇していただいています。

骨董古美術雑誌「目の眼」特別講演会 コレクション

蒐集という病 欲の塊が人類の宝となる時

July 10, 2024, 7:00PM
日本経済新聞社カンファレンスルーム

杉本博司 現代美術作家
山口桂 クリスティーズジャパン社長
橋本麻里 江之浦美術館 日橋山美術館 岡部美術館 館長

今年7月10日には、ライターの橋本麻里さんが加わり、3人による鼎談を開催します。

アンティーク・コンシェルジュ

近年増えているのが骨董・古美術品の売買や、コレクションの管理・整理に関するご相談です。

日本の骨董・古美術市場は“クローズドマーケット”といわれ、公的な鑑定機関もなく、一般のエンドユーザーにとって信頼できる人や方法を見つけるのは困難です。

現役コレクターからのコレクションに関する相談や、終活・遺品整理などによる骨董・古美術品の売却先に関する相談。また、海外のお客様への古美術店の紹介やガイドアテンド、海外オークションへの出品など、相談内容は多岐にわたります。

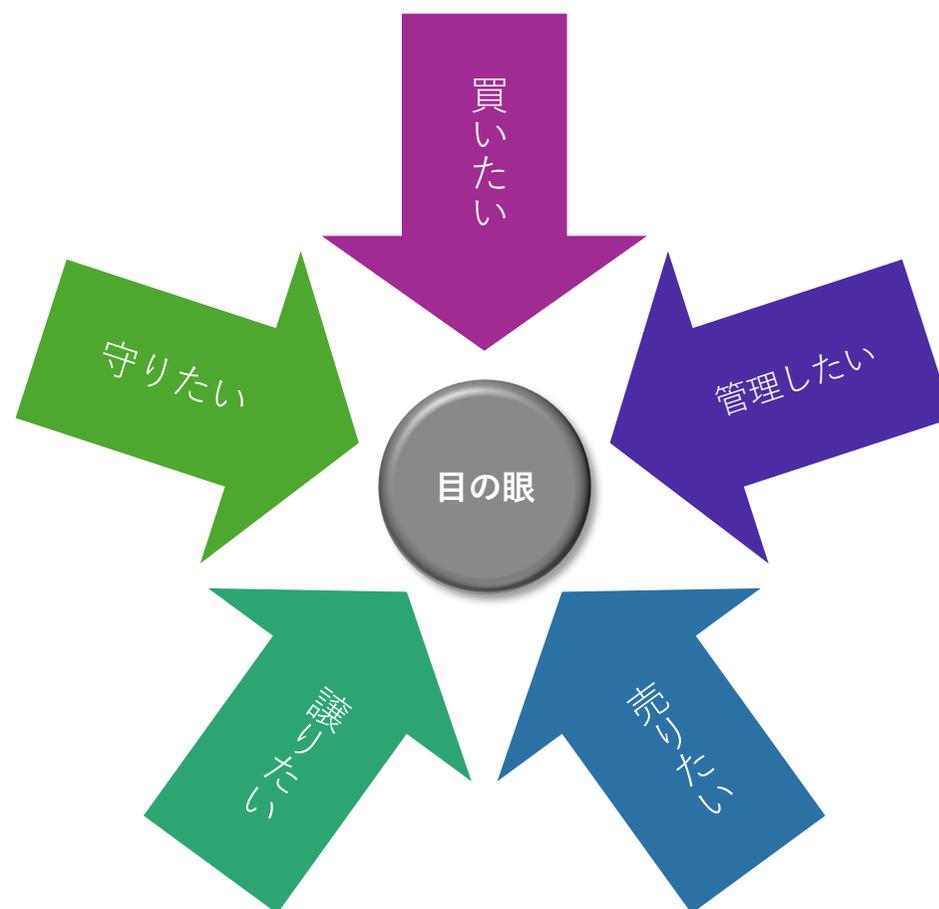
今後、弊社が培ってきた全国的古美術商とのネットワークや知見を活用したサポートの事業化をはじめ、美術品に関する問題解決につながる講座事業の実施も視野にしています。

- 信頼ある購入先や売却先の紹介
- コレクションの撮影や図録の制作
- 古美術にまつわる歴史やジャンルに関する講座



【コレクション図録】

コレクションの記録は、コレクター本人だけでなく、それを引き継ぐご家族からのニーズもあります。



●全国的古美術商とのネットワーク〈取引先〉

東京美術倶楽部、京都美術倶楽部、大阪美術倶楽部、
名古屋美術倶楽部、金沢美術倶楽部
各美術倶楽部加盟店 約300件 など